

日本女性会議2016 秋田

10月28日～29日

みつめて みとめて あなたと私 ～多様性(ダイバーシティ)とは～

東北秋田での男女共同参画活動はどのようになされているのかと興味津々で参加しました。

私は第5分科会「地域づくり」に参加しましたが、秋田の抱えている超少子高齢化社会の中、活躍されている二人の女性の話に会場は熱気にあふれていました。2004年より能代市初的女性自治会長の「一人一人が輝ける場所づくりそして安全安心な地域を目指して」という活動目標の達成に、男女共同参画への理解と支援が必要不可欠だったという言葉が印象に残りました。秋田県内25市町村の中、「男女共同参画」を明記した部署が3市しかない中、活躍されている話に、恵まれた環境にある福岡の活動を改めて考えさせられる良い機会となりました。

「男女共同参画を知っていますか?」という問いに一人でも多くの方が「知っています」と言える地域を目標に頑張りたいと思います。



今宿校区 松本 真理子

委員交流・意見交換会9月

日時:9月23日(金) 13:30～15:30
場所:西区役所A・B会議室

アミカス劇隊による寸劇「妻が男女協の役員になる」、各グループで朗読「料理を作る男」をもとにして、グループワークを行いました。

【ワークシートより】

- ①地域で女性のリーダー、役員が増えるために必要なことは?
⇒家族・周りの人の協力
- ②男性が地域活動に参画するためには?
⇒家庭での会話を通して夫を地域活動に誘い出し、居場所を見つけてもらう
- ③男性も家事、育児を積極的に行うようになるためには?
⇒**夫側** 初めから妻に頼らず、自分からチャレンジしてみる
妻側 あたたく見守り、絶対否定しない、ほめる
- ④意識・取り組みについて
⇒男女問わず食事、地域のひととの付き合いなど自分で出来るようになってもらう

近頃メディアでもワークライフバランスについてよく取り上げられていますが、会社企業も意識改革が必要な時代となり、働き方も変わって来ると思います。

急な変化は難しいですが、男性も女性も全ての人と共に楽しく地域活動で輝けるように、まずは家庭で男女共同参画について話し合い、お互いの協力、思いやりのもとで実践し地域貢献していきたいと思っています。

玄洋校区 松岡 智恵子

委員交流・意見交換会1月

日時:1月11日(水) 13:30～15:30
場所:西区役所A・B会議室

テーマ

「地域における女性の活躍について」

今回のテーマについては、まだまだ課題も多いです。しかし、私たちが得意とする楽しい場づくり・楽しい活動をしていくことによって徐々に活躍の場を増やしていきけるのではないのでしょうか?また、様々な催事を通じて情報発信する場を少しでももつことにより、女性の力を一層引き出すきっかけづくりになるのではないのでしょうか?その他、各団体との協力体制を築いていくことが、男女共同参画社会を進める上で、要になっていく気がします。これからも、性別や年代を超えて住みよい地域社会の一員として歩を進め、地域に返していこうと思います。

福重校区 松尾 裕美



編集後記

委員会を経て、社会をよりよいものにしていこうという熱意を感じました。一人ひとりの生活を充実させるために、努力を惜しんではならない。私も気持ちのよい挨拶、身近な人とのコミュニケーションから始めたいです。 下山門校区 中村 圭

なぎさ



あなたと輪を広げたい

参画は 家庭から地域へ そして社会へ

(平成28・29年度 西区男女共同参画をすすめる会 年間テーマ)

編集 西区男女共同参画をすすめる会
発行 福岡市西区地域活動推進会

(〒819-8501 福岡市西区内浜1丁目4-1)

自治協議会と男女共同参画をすすめる会の意見交換・交流会

日時 12月15日(木) 13:30～15:15

場所 西区役所A・B会議室

参加者 参加者 42人(自治協:19人 男女協:23人)

西区男女共同参画をすすめる会による初めての企画で、各校区自治協議会と男女協の会長と意見交換・交流会を行いました。

貞清潔氏(福岡市共創による地域づくりアドバイザー)をファシリテーターに招き、6班(3・4校区毎)に分かれ、自治協議会と男女協お互いの活動や組織について理解を深め、連携を強化することを目的に、各自の思いをポストイットに記入してシートに貼り、それぞれの課題や質問を交わすなど和気あいあいとした意見交換会でした。

各校区地域性があり、自治協議会活動(運営委員会、企画会議等)への男女協の定期的な参画がある校区や常に連携がある校区など色々な情報交換ができました。今後も意見交換会を企画していきたいと思っています。

これからも自治協・男女協諸団体協力しながら「地域において男女が共に支えあい、安全・安心で住みよい地域づくり」を目指していきます。

北崎校区 岩橋 明美



*男女協…男女共同参画協議会等の団体を示す

2面に両会長のコメントを掲載

自治協議会と男女共同参画をすすめる会の意見交換・交流会

両会長のコメント

今回の意見交換・交流会は、男女協働から「組織整備が進み、会員意識が改善されるなど、活動基盤が整ったので、今後、女性の社会活動をこれまで以上に推進するために、自治協議会会長各位のご理解を得たい」との意向を受け、開催協議が始まりました。開催について、自治協議会会長会で協議したところ「男女協や女性の適任者に役員就任をお願いしても、家事で多忙であることや力量不足等の理由で辞退されることが多く、成果はあまり期待できない」との意見も出ましたが、今後、地域での女性登用について真剣に検討する必要があるとして、開催に同意した次第です。

会議は6班に分かれ、率直な意見交換がなされましたが、時間的な制約のなか、相互の実情報告のみに終始した点においては、課題を残したと思います。

今後も引き続き協議していくことが必要との声も上がっていました。

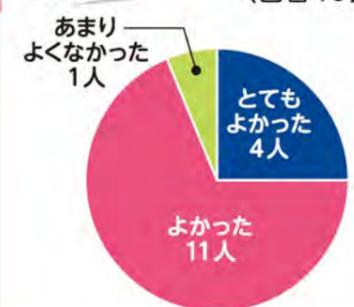
西区自治協議会会長会 会長 大谷 善博(周船寺校区)

今回初めての意見交換・交流会を実施いたしました。これまで自治協の方々に「参画の場所やポストを与えて欲しい」などの要望をしてきましたが、自治協議会側からは、「せっかくポストを用意しても拒否するのは女性のほうじゃないか」と言われてきました。これはやはり、各校区の自治協議会の様々な事情があり、一概に要望しても難しいと思い、今回の意見交換・交流会を企画しました。それぞれの率直な意見を出し合い、相互理解につながればと思いましたが、短時間ということで不消化の部分は多かったのかもしれませんが、「うちの校区では、私でよければお引き受けしますといってくれた人がいるよ」との嬉しい言葉をいただき、今後も理解を深め合い、有意義な交流会を続けたいと思えました。ご参加いただいた皆様、真摯に語り合ってくださいありがとうございました。

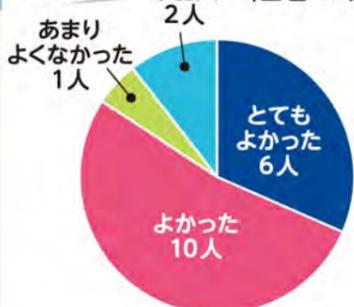
西区男女共同参画をすすめる会 会長 井 規子(西陵校区)

アンケート集計結果

自治協 (回答16人)



男女協 (回答19人)



参加者からのコメント

自治協

- 一般的な情報交換に終始し、肝心の女性の登用についての議論まで進まなかった。
- 男女協は校区の下働きではないことが分かった。
- 男女共同参画推進のために、今後とも自治協議会として協力する。また、自治協議会へもっと取り込む必要がある。
- 時間が足りず中途半端だったので、議題を焦点化して年に1回は行うべきでは。

男女協

- 他校区・自校区の自治協議会会長の意見が聞けて良かった。
- 互いを知る大切さ、言葉を交わす大切さを感じた。
- もっと地域へのアピールが必要。参加型の事業が必要と感じた。
- 今回の意見交換会をきっかけに、地域に還元できる活動をしていかなければならない。

西区男女共同参画フェスティバル2016

日時 12月10日(土) 13:30 ~ 15:30

1部

西区男女共同参画推進奨励賞表彰式

地域で男女共同参画を実践・推進し、地域の男女共同参画社会の形成に貢献している個人や団体に対し、毎年、西区が表彰を行っています。今年は2人の方が受賞されましたので紹介します。

受賞者一覧 井上 美千代 (沓岐東校区)
(敬称略、写真右から) 角 博美 (西陵校区)



2部

朗読劇 スーパーは地域の情報網

舞台は夕方のスーパーです。

主人公は、共働きする若い夫婦の買い物姿に影響を受け、講座で学んだ「ワークライフバランス」を実行しようと考えます。両親の介護をきっかけに頑張る「カジダン夫」や、地域での役員就任に悩む主人公を応援するご近所さんを博多弁を交えながら男女共委員が演じました。



男女の枠を超え、今出来る人が出来ることを…出来たら…基盤である家庭が充実します。それが地域活動の参加、さらに参画へと繋がるのではないのでしょうか。介護問題などに対してもひとりでは悩まず、地域ぐるみで対応でき、私たちがめざすテーマ「参画は家庭から地域へそして社会へ」と進んでいくと信じています。

北崎校区 岩城 眞奈美

3部

講演会 「私の経営理念～人を活かす経営～」

講師 株式会社ふくや 代表取締役社長 川原 正孝 氏



創業者 川原 俊夫 氏の経営理念

- 自分の命は神様から頂いたおまけみたいなものだから、世のため人のために使う
- 商売はコミュニケーション
- お客様から要望を聞き、改善する
- 売り上げより品質を高める
- めんたいこの作り方を独占せずに皆さんに作ってもらおう

これらの理念は、創業者の品質にける熱意と地域貢献に少しでも尽くしたいという気持ちの表れであった。ある時期忙しくなり、お客さんに対する社員の態度が横柄になったときから、研修を重ね、見事に克服している。さらに「PTAや地域活動に参加する社員へ手当を出す」という取り組みについても、お金で釣るというものではなく、地域貢献により社員の社交性・人間性を向上させ、その喜びを実感してもらおうとともに、その経験を仕事に活かしてもらおう狙いがある。

また、女性が多い職場で致命的なことは、せっかく育った社員が結婚や出産で会社を辞めることであった。そこで、夫婦どちらにおいても育児休暇をとりやすい環境、復帰においても勤務形態を多様化することで柔軟に対応できる職場環境づくりに努めている。育児経験が接客のスキル向上になるだけでなく、すでにスキルを持っている女性が仕事を辞めることなく、働く側にも会社側にも良いものとなった。女性が働きやすい職場は、男性も働きやすいことが実践されていると感じた。

愛宕校区 角 敏秀